

光スポットになっています。

海の文化館を見学後、浜上とと活隊の活動紹介。浜上とと活隊では魚食を普及するために「魚を食べよう」と全国で初めて条例を作り活動しています。小学校で魚の料理教室を開催したり、グッズ、幟などを作って普及活動をしています。昔の日本の食卓に戻し、日本の基幹産業や水産

業を活性化させたいと頑張られています。

香美町では、それぞれの地区が特徴を活かし地域づくりに活用しています。一部地区ではなく、香美町の多くの地域の特徴を見ることができ、とても勉強になりました。無いものを求めるのではなく、地域の特徴をさらに活かした地域づくりは、とても素晴らしいと感じました。

## 第11分科会

# 淡路島

## 災害から学ぶ地域愛づくり

播磨

NPO 法人エコボランティア 池田 典子 氏

第11分科会の会場は、阪神淡路大震災で被災した淡路島でした。淡路島で被災され亡くなった方は一人。島で消防、警察、公的な機関の手助けは、道路が割れて通行できず思うようにいかなかったそうです。被災した市民を助けたのはご近所の方が多く、隣近所の家族構成から、どの部屋に誰が寝ているかを殆どのご近所の方が知っていたので、行政だけに頼らず、地震で倒れた家屋の中から助け出す事が出来たそうです。

群馬県では近年大きな災害がなく、家屋の崩壊もあまり聞きません。メディアで放送された被災地の様子を見て恐ろしさを感じ、いざとなったら何をしたらよいのか。準備はするものの、思うような行動ができるか不安要素があります。語り部による研修として「自分の命は自分で守る」「備えあれば憂いなし」「防災から減災」というテーマで、震災記念公園にて米山館長よりお話を聞きました。私も自宅付近のハザードマップを確認し、自分でできる減災を心がけていきたいと思いました。また、ご近所付き合い以前より前向きに助け合う事の必要性を考え、お付き合いをしていこうと思いました。

「淡路ふるさと塾」の木村さんは過去の経験を活かし、全国で被害にあわれている方に、『復興のルール』や『いかに時間と手間が掛からない

ように避難場所で過ごすか』を各地で被災し避難所で暮らす方と、支援をする方に指導なさっています。例えば、支援物資は受け取る側が箱から物が出しやすくなるよう箱の側面を上下に積む事と一人でも運べる重さにする事など、スムーズに事が運ぶように細かく指導なさっています。避難所で狭いスペースに何日も暮らす事は、肉体的にも精神的にも人を陥れてしまう心配があります。いち早く、人として安らいで生活を送っていただく環境が必要なのだと語っていました。

研修を終えて、前橋で何ができるのだろうかと考えました。そこで、被災された方を前橋で受け入れて、安心して生活を送っていただく。その準備が必要であると感じました。行政の方が中心になり、市民に呼びかけ学ぶ機会を持って頂きたいと思います。

